

福山城 広島県福山市丸之内一丁目 8

徳川家康の従兄弟である初代藩主水野勝成は 1619(元和 5)年、西国鎮衛の拠点として備後東南部・備中西南部の計 10 万石を得て大和郡山より入封。1622(元和 8)年に福山城を築き、この地を福山と名付けました。その後 1700(元禄 13)年に出羽国より松平忠雅が入封するも 10 年で転封。1710(宝永 7)年、下野国宇都宮藩から阿部家初代藩主阿部正邦が入封し、以後 10 代正桓まで福山城は藩政の中心となりました。現存する建造物としては伏見櫓と筋鉄御門があり、このうち伏見櫓は福山城の築城時に伏見城から移築されたもので現存の櫓では最古の建築です。JR 福山駅のすぐそばにあるため復興天守を新幹線のホームから見ることができます(パンフ)。



福山駅新幹線ホームから石垣と櫓が見えます。



福山城の石漂



伏見城の東櫓を移築(国の重文)の伏見櫓



鉄板が打付けてある筋鉄御門(国の重文)



福山大空襲により焼失し復興天守の扱い



天守の裏側は黒で統一



石垣

かなり高い(大人、トラック比)



八方よしの松



鏡櫓(内部は文書館で利用)



月見櫓(伏見城の櫓を移築)



御湯殿(国宝に指定だったが空襲で焼失)



鐘櫓(時の鐘、現在も4回鳴)



徳川家康の従兄弟の水野勝成銅像



石落としの櫓